

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山県立林野高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒707-0046
岡山県美作市三倉田58-1

E-mail hayasino@pref.okayama.jp

Website www.hayasino.okayama-c.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 196名 女子 181名 合計 377名
幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校では、総合的な学習の時間を My Dream Project (MDP) と名付け、生徒一人一人の自己の在り方・生き方を考える思考・実践の全てを包括する活動と捉え、学年の枠を超えた異年齢集団を基盤にして全校で取り組んでいる。

中山間地域に位置する当校では、MDP 活動を通じて、持続可能な社会の形成者としての資質を持つ人材育成が重要であると考え、生徒が自分の興味・関心のあるグループに所属し、それぞれが地域の課題解決とグループ目標達成のために活動を行っている。

以下は、MDP の主な活動内容である。

①ESD 研修会

「総合的な学習の時間」(MDP) の説明とともに、「ESD とは何か。MDP とどんな関係があるのか。」等について研修を行った。生徒たちは各グループで昨年度に作成した目標を ESD の視点から再検討し、自分たちが何を目指して活動をしているのか確認し、1年間のロードマップを作成した。また、教員も研修を行い、ESD・MDP について共通理解を図った。

②デアイ場（地域の達人講座）

「デアイ場」とは、地域に出かけて「地域の達人」からお話を伺ったり、本物に触れたりする活動であり、この活動を通して生徒は自分が設定した課題解決のための糸口を見つけていった。

③MDP 強化日

デアイ場で生徒が獲得した新たな視点や課題解決の糸口を深めるために、各グループが、地域へ出向いたり講演を聞いたりする等の活動を行った。そして、課題解決のために何を実践していけばよいのかについて考えるヒントを得た。

④むかし倉敷ふれあい祭り

「むかし倉敷ふれあい祭り」とは、「総合的な学習の時間」に各グループが取り組んだ課題解決の実践の場として、当校周辺の商店街をお借りし、当校と地域の方が協働して企画・実施しているものである。本年度で7回目をむかえた、この祭りの中で、展示を行ったり商品を販売したりしながら、地域の方々との交流を深め、地域活性化に貢献しようとした。

地域の伝統踊りでありながら後継者不足により断絶していた「代官踊り」を4年前に復活させており、今年度も生徒たちが、地域の方々とともに商店街を練り歩き、地域文化の復興にも貢献した。また、活気ある商店街をイメージしたシャッターアートや歩道橋アートをし、今だけでなく未来にも目を向け、どんな地域にしたいか、その中で自分たちはどんな役割を担うべきか等、考えを深めた。

⑤実践報告会

各グループ各チームで1年間の活動を分析し、成果と課題をポスターセッション形式で発表・全体で共有した。ポスターには、ESD と MDP の関係を意識するために研究内容に関係するESD アイコン、また、活動を通して身に付いた力や態度を分類したアイコンを貼り付けた。この報告会で、生徒たちは他のグループの活動について深く理解し、自分たちの活動と対比させながら、新たな視点を得ることができた。



②の写真（自然・環境問題グループ）



⑤の写真



④の写真（シャッターアート）



④の写真（代官踊り）

（２）活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間を My Dream Project (MDP) と名付け、ESD の視点を導入した探究活動を行っている。進路先の知識習得学習「行き先」探しではなく、「生き先」を求めた学習（自分という存在を社会でどう生かすか、生徒も社会・地域の一員であり、何年後かの社会・地域を支える存在であることを意識した活動、社会で必要とされる力を育成する活動）と捉え、地域を対象とした、課題解決型の活動を協働して行う。隔週 2 時間（火曜日 6・7 限）と 7 月（数時間）を MDP の時間としている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年次の枠を超え、全教員で指導に当たっている。生徒は興味・関心に基づき 1～3 年次の異年齢で構成されるグループを編成、その後取り組みたい課題（テーマ）によってさらにチームに分かれ、各担当教員の指導のもと、地域を対象とした課題解決型学習に取り組む。また、フィールドワークや地域研究、外部施設訪問等の体験的な学習、外部講師の積極的な活用など、生徒に多くの「出会いの場」を与えるように配慮している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

MDP では、学習の過程での取り組みやレポート等をステップごとのルーブリックで評価する。また、年間の活動を通して身に付けたい力の達成状況（生徒一人ひとりの個人内で能力や態度に伸長が見られたかどうか）を「到達度自己評価表」で評価する。1 年次生で課題発見をし、2 年次生がチームリーダーとなり、3 年次生がアドバイザーとして支えるという形で活動しているが、1 年次生と 2・3 年次生の間で温度差が見られた。全員が協働して主体的に動く活動にしていくことが必要である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動成果の発信場所として毎年、むかし倉敷ふれあい祭りを開催している。MDP で見つけた課題解決の実践の場となっており、生徒間だけでなく、地域の方々に発信することによって、地域活性化を目指している。また、活動の成果をレポートにし、冊子にまとめたものを配布している。1 年間のまとめとなるだけでなく、次年度に向けての課題を新たに見つけることにつながっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

「ユネスコみらいミーティング in 大分」に4名が参加し、ユネスコの魅力について学んだ。様々な地域の人と交流することによって、新たな視点を取り入れ、自分の地域の魅力に気付くことができた。
また、「日・中・韓青年文化フェスティバル」に4名が参加した。日本・中国・韓国から高校生が12名ずつ参加し、持続可能な社会のあり方について学び、交流した。それぞれの文化を尊重する態度、積極的に行動する姿勢を身に付けることにつながった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

岡山県のユネスコスクールに加盟している高等学校10校が集まり、「岡山県ユネスコスクール高等学校ネットワーク実践交流会」を開催した。当校からは、7名が参加した。各校の取り組みについて発表をし、その後発表内容に対する質問や問題点の話し合いを行った。他校の取り組みを知ることによって、自分たちの課題を新たに発見することができた。また、今年度はブルガリアの高校生も参加しており、よりグローバルな視点で交流をすることができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

今年度は「ユネスコみらいミーティング in 大分」「日中韓青年文化フェスティバル」「岡山県ユネスコスクール高等学校ネットワーク実践交流会」等、学校外での活動に多くの生徒が参加できた。他校生や他文化の人々と交流することによって、多様な視点・考え方が生まれた。また、校外で学んだことを校内に向けて、掲示板や全校生徒に向けての発表等で発信した。それによって、生徒同士で刺激を与え、生徒の積極的な行動や ESD 活動への参加を促すことができた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

当校では、「“ふるさと創造 林高隊” 自分の住む地域をつくり発信できる人材、地域を支え、日本を支える人材、仕事を興す人材づくり」を平成 30 年度を目途とした総合的な学習の時間の長期目標としている。来年度は目標達成に向けて、生徒の興味・関心を引き出し、深めようとする態度を育成する。また、ESD についての理解を深め、積極的に自ら活動し、課題解決に向けて協働する姿勢を育む。さらに、台湾 2 校との包括連携協定を今年 2 月に結んだ。来年度の実践報告会で交流予定である。

以下は、平成 30 年度の活動予定である。

- 4 月 ESD 研修会 [教員・生徒]
- 6 月 デアイ場（地域の達人講座）
- 7 月 MDP 強化日
- 9 月 むかし倉敷ふれあい祭り
- 11 月 岡山県ユネスコスクール高等学校ネットワーク実践交流会
- 12 月 実践報告会
台湾から約 60 名を招いての交流会
- 3 月 ESD 研修会 [教員・生徒]